

表紙の写真：
慶應義塾図書館旧館のステンドグラス

図書館旧館の竣工から3年を経た1915（大正4）年12月，和田英作の原画，小川三知の施工によるステンドグラスが正面の階段踊り場に完成した。高さ6.45メートル，幅2.61メートルの大作で，甲冑を身にまとった武将が白馬から降り，ペンマークをかざした女神を迎えるところが描かれている。下部にはラテン語で Calamvs Gladio Fortior（ペンは剣よりも強し）の文字があり，近代文明の暁を表している。『慶應義塾図書館史』には「青い壁面によるやや薄暗いホールから，階段に面するとき，この色彩眩ゆいステインド・グラスには恍惚とした崇高さにうたれ，学問の深奥にわけ入ろうとする大学図書館の入口にふさわしい雰囲気をかもした」とある。1945（昭和20）年5月に空襲で焼失したが，1974（昭和49）年12月，小川の助手であった大竹龍蔵により復元された。（三田メディアセンター 森嶋桃子）